



今月の案内人

まさはる  
 蒲郡市 儀貝正久さん (左)  
 としかず  
 岡崎市 中村敏一さん (右)



★予科練之碑(尾崎町)



当時の基地内の様子



太平洋戦争末期、現在の安城市域には、2つの航空基地が存在しました。一つは、現在の市南部にあった明治航空基地。そして、もう一つが岡崎航空基地です。

岡崎航空基地は、現在の安城市尾崎町、橋目町、柿碓町から岡崎、豊田市域を含む広大な敷地に置かれ、その安城市域と岡崎市域部分には第一岡崎海軍航空隊がありました。

わたしたちは、昭和19年5月15日に飛行予科練習生(予科練)として第一岡崎海軍航空隊に入隊しました。本来、予科練はパイロットの養成が目的でしたが、当時は戦闘機が不足しており、実際に操縦技術を教わることができなかつたため、わたしたちは、整備技術などを学んだのです。

隊では、6か月の教育を受けました。戦闘機の整備や航空力学、そして、海軍の兵隊として必要な手旗やロープの

結び方などを勉強したのです。

もちろん内容には、勉強だけでなく運動もありました。水泳の訓練では、近くにあった明治用水に放り込まれましたが、2回もすれば、泳ぎが苦手な者も泳げるようになったものです。

そして、軍隊ですから、怠けていれば当然、厳しい罰が与えられます。罰は練兵場を走らされたり、尻を棒でたたかれたり様々でした。

卒業後、わたしたちは、それぞれ各地の部隊へと配属されましたが、結局、一度も戦闘機で戦うことなく終戦を迎えることとなったのです。

現在、第一岡崎海軍航空隊の跡地は農地となり往時の面影はほとんど残っていませんが、尾崎町の熊野神社境内には、記念と慰霊を兼ねた碑「予科練の碑」があります。わたしたちにとってここは、十代の若き日に命と情熱をかけた思い出の地なのです。

その23

第一岡崎海軍航空隊跡(予科練之碑)

